

JAPAN PATENT OFFICE

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

Date of Application: August 7, 2002

Application Number: Patent Application No. 2002-229978
[ST.10/C]: [JP2002-229978]

Applicant(s): HONDA ACCESS CORPORATION

June 13, 2003

Commissioner,
Japan Patent Office

Shinichiro Ota

Certificate No. 2003-3046506

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2002年 8月 7日

出 願 番 号

Application Number:

特願2002-229978

[ST.10/C]:

[JP2002-229978]

出 願 人

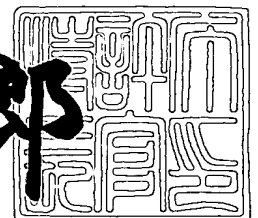
Applicant(s):

株式会社ホンダアクセス

2003年 6月13日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

太田信一郎



出証番号 出証特2003-3046506

【書類名】 特許願

【整理番号】 YA102-34

【提出日】 平成14年 8月 7日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 B62J 39/00
B60R 11/00

【発明の名称】 自動二輪車におけるＣＤチェンジャー搭載構造

【請求項の数】 1

【発明者】

【住所又は居所】 埼玉県新座市野火止 8 目 1 8 番 4 号 株式会社ホンダアクセス内

【氏名】 落合 英雄

【発明者】

【住所又は居所】 埼玉県新座市野火止 8 目 1 8 番 4 号 株式会社ホンダアクセス内

【氏名】 島崎 隆行

【特許出願人】

【識別番号】 390005430

【氏名又は名称】 株式会社ホンダアクセス

【代表者】 橋本 昇

【代理人】

【識別番号】 100071870

【弁理士】

【氏名又は名称】 落合 健

【選任した代理人】

【識別番号】 100097618

【弁理士】

【氏名又は名称】 仁木 一明

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 003001

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 自動二輪車におけるＣＤチェンジャー搭載構造

【特許請求の範囲】

【請求項１】 後輪（ＷＲ）を上方から覆うリヤフェンダー（２９）の上方に配置されるトランク（２４）内に、ＣＤチェンジャー（２６）が収納される自動二輪車において、前記ＣＤチェンジャー（２６）の両側で車体フレーム（Ｆ）に固着された支持脚（７３）の上部にベース板（６６）が固着され、前記車体フレーム（Ｆ）側からの振動を減衰する浮動支持手段（３６）を介して前記ＣＤチェンジャー（２６）が両ベース板（６６）に支持されることを特徴とする自動二輪車におけるＣＤチェンジャー搭載構造。

【発明の詳細な説明】

【０００１】

【発明の属する技術分野】

本発明は、後輪を上方から覆うリヤフェンダーの上方に配置されるトランク内に、ＣＤチェンジャーが収納される自動二輪車に関し、特に、ＣＤチェンジャー搭載構造の改良に関する。

【０００２】

【従来の技術】

従来、かかるＣＤチェンジャー搭載構造は、特開２００２－９３１３３号公報で既に知られている。

【０００３】

【発明が解決しようとする課題】

ところが、上記従来のものでは、車体フレームに支持されたトランクに、ＣＤチェンジャーが支持されており、車体フレームの振動がトランクで拡大され、そのトランクからＣＤチェンジャーに振動が伝わることになるので、ＣＤチェンジャーに作用する振動が比較的大きくなっており、ＣＤチェンジャーでの音飛びの発生の原因ともなっている。

【０００４】

本発明は、かかる事情に鑑みてなされたものであり、ＣＤチェンジャーに作用

する振動を抑制し得るようにした自動二輪車におけるＣＤチェンジャー搭載構造を提供することを目的とする。

【 0 0 0 5 】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するために、本発明は、後輪を上方から覆うリヤフェンダーの上方に配置されるトランク内に、ＣＤチェンジャーが収納される自動二輪車において、前記ＣＤチェンジャーの両側で車体フレームに固着された支持脚の上部にベース板が固着され、前記車体フレーム側からの振動を減衰する浮動支持手段を介して前記ＣＤチェンジャーが両ベース板に支持されることを特徴とする。

【 0 0 0 6 】

このような構成によれば、車体フレームの振動がトランクに伝達されてもトランクからＣＤチェンジャーに振動が伝わることはなく、車体フレームの振動が浮動支持手段で減衰されてＣＤチェンジャーに伝わることになるので、ＣＤチェンジャーに作用する振動を抑制することができる。

【 0 0 0 7 】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施の形態を、添付の図面に示した本発明の一実施例に基づいて説明する。

【 0 0 0 8 】

図１～図２０は本発明の一実施例を示すものであり、図１は自動二輪車の側面図、図２は開放状態にあるトランクの斜視図、図３は図２の３矢視拡大図、図４はＣＤチェンジャーを突出位置に回動した状態での図２に対応した斜視図、図５は図３の５－５線拡大断面図、図６は図５の６－６線断面図、図７は蓋板を取外した状態でのＣＤチェンジャー支持装置の側面図、図８は図７の８－８線矢視図、図９は図８の要部拡大図、図１０は蓋板を取付けた状態での図７の１０－１０線に沿う断面図、図１１はＣＤチェンジャー支持装置の分解斜視図、図１２はＣＤチェンジャーを取付ける前のＣＤチェンジャー支持装置の側面図、図１３は図１２の１３－１３線拡大断面図、図１４は図１３の１４－１４線断面図、図１５は図５の１５－１５線拡大断面図、図１６は図８の１６－１６線拡大断面図、図

17は図8の17-17線拡大断面図、図18は蓋板を係合解除位置にスライドさせたときの図8に対応した図、図19は蓋板を係合解除位置にスライドさせたときの図15に対応した図、図20はCDチェンジャーを突出位置とするように支持棒が回転したときの図19に対応した図である。

【0009】

先ず図1～図4において、大型の自動二輪車Vの車体Bには、その後輪WRの上方に位置するようにして乗員を座乗せしめるためのメインシート21と、該メインシート21よりも後方側で同乗者を載せるためのピリオンシート22と、後輪WRの左右にそれぞれ配置されるサイドバッグ23、23と、前記後輪WRの上方であって前記ピリオンシート22の後方に配置されるトランク24とが設けられる。

【0010】

トランク24は、上部を開放可能として形成されるとともに後輪WRを上方から覆うリヤフェンダ29のさらに上方に配置されるものであり、該トランク24の上部を開閉可能に閉じるトランクリッド25がトランク24の上部にヒンジ結合される。このトランク24にはCDチェンジャー26が収納されており、メインシート21に座乗して操向ハンドル27を握ったドライバは、その手元操作により前記CDチェンジャー26での選曲、音量および音質の調節をしつつ、カウリング28等に設けられたスピーカ（図示せず）もしくはヘルメットに設けられたインターコム（図示せず）等により音楽を聞くことができ、ピリオンシート22の同乗者も音楽を楽しむことができる。

【0011】

図5および図6を併せて参照して、トランク24は、水平な底壁30を有して上部を開放した箱形に形成されるトランク主部24aと、トランク主部24aの前方下部から下方に突出される突部24bとで構成される。前記トランク主部24aは荷室31を形成するものであり、トランク主部24aを構成する壁の一部である底壁30に開口する収納凹部32が前記突部24b内に形成される。

【0012】

CDチェンジャー26は、その前面にCD挿脱用の開口部33および各種スイ

ツチ類 3 4 を有して前後に長い箱形に構成されるものであり、前記開口部 3 3 および各種スイッチ類 3 4 を自動二輪車 V の前後方向に沿う後方側に向けるとともに自動二輪車 V の幅方向中央部に配置される C D チェンジャー 2 6 を、前記収納凹部 3 2 に収納することができる。

【 0 0 1 3 】

図 7 ～図 1 1 をさらに併せて参照して、C D チェンジャー 2 6 は C D チェンジャー支持装置 3 5 で支持されており、この C D チェンジャー支持装置 3 5 は、車体 B 側からの振動が C D チェンジャー 2 6 に極力及ばないように該 C D チェンジャー 2 6 を浮動支持する浮動支持手段 3 6 と、C D チェンジャー 2 6 の前面の開口部 3 3 および各種スイッチ類 3 4 を前記底壁 3 0 の内面から荷室 3 1 内に突出させる突出位置（図 4 で示す位置）ならびに C D チェンジャー 2 6 を収納凹部 3 2 内に収納させる収納位置（図 2 および図 3 で示す位置）間で前記 C D チェンジャー 2 6 を回動させ得る回動支持手段 3 7 と、C D チェンジャー 2 6 が前記収納位置にある状態では収納凹部 3 2 の開口端を塞いで底壁 3 0 の内面と面一となるようにして C D チェンジャー 2 6 を覆う合成樹脂製の蓋板 3 8 とを備える。

【 0 0 1 4 】

C D チェンジャー 2 6 の両側面には、その前後方向に距離をあけた 2 箇所の取付け箇所が設定されており、内側面を該 C D チェンジャー 2 6 の両側面に対向させた一对の取付け板 3 9、3 9 が、前記取付け箇所に、たとえばねじ部材 4 0、4 0 …により取付けられる。

【 0 0 1 5 】

浮動支持手段 3 6 は、前記両取付け板 3 9、3 9 の外側面に対向して配置される一对の内側支持板 4 1、4 1 と、両内側支持板 4 1、4 1 に一对ずつ装着されて前記両取付け板 3 9、3 9 をそれぞれ支持するダンパ 4 2、4 2 …と、前記両内側支持板 4 1、4 1 に外側からそれぞれ対向するように配置される一对の外側支持板 4 3、4 3 と、両外側支持板 4 3、4 3 に一对ずつ装着されて前記両内側支持板 4 1、4 1 をそれぞれ支持するダンパ 4 4、4 4 …と、前記両取付け板 3 9、3 9 および両外側支持板 4 3、4 3 間にそれぞれ一对ずつ設けられて C D チェンジャー 2 6 の重量に対抗するばね力を発揮する吊下げばね 4 5、4 5 …とを備え

る。

【 0 0 1 6 】

前記ダンパ 4 2 …, 4 4 …は、たとえばゴム等の弾性材により円盤状に形成される袋体内にグリース等の粘性の高い液体が封入されて成る従来周知のものであり、内側支持板 4 1, 4 1 に対する取付板 3 9, 3 9 の鉛直面内での相対移動が各ダンパ 4 2 …で緩衝され、外側支持板 4 3, 4 3 に対する内側支持板 4 1, 4 1 の鉛直面内での相対移動が各ダンパ 4 4 …で緩衝される。

【 0 0 1 7 】

左右一对の内側支持板 4 1, 4 1 の上部は、前後に間隔をあけた一对の連結板 4 6, 4 6 で相互に連結され、それらの連結板 4 6, 4 6 で内側支持板 4 1, 4 1 相互の間隔が保持される。また左右一对の外側支持板 4 3, 4 3 は、外側方に張り出す取付け鏝部 4 3 a, 4 3 a を上端部に有して略 L 字状の横断面形状を有するように形成されており、各取付け鏝部 4 3 a, 4 3 a は、前後に間隔をあけた 3 つの連結板 4 7, 4 8, 4 9 で相互に連結される。さらに左右一对の外側支持板 4 3, 4 3 の前後方向中間部に、上下に延びる縦枠板 5 0, 5 0 の上部が締結されており、両縦枠板 5 0, 5 0 の下部には略 L 字状の横断面形状を有して前後に延びる横枠板 5 1, 5 1 の中間部が固着され、さらに横枠板 5 1, 5 1 の前後両端が連結板 5 2, 5 2 で相互に連結される。

【 0 0 1 8 】

このような外側支持板 4 3, 4 3、連結板 4 7 ~ 4 9, 5 2, 5 2、縦枠板 5 0, 5 0 および横枠板 5 1, 5 1 で、CD チェンジャー 2 6 を囲む支持枠 5 3 が構成され、CD チェンジャー 2 6 が該支持枠 5 3 で浮動支持される。

【 0 0 1 9 】

ところで、取付け板 3 9 を CD チェンジャー 2 6 に取付けるためのねじ部材 4 0, 4 0 を支持枠 5 3 の外方側から操作するための操作用開口部 5 4 が支持枠 5 3 における内側支持板 4 1 および外側支持板 4 3 間に形成されており、両ねじ部材 4 0, 4 0 の一方を側方から覆う位置に配置されている縦枠板 5 0 には、前記一方のねじ部材 4 0 に対応した操作用開口部 5 5 が設けられる。

【 0 0 2 0 】

また連結板 4 7, 4 9 には、C D チェンジャー 2 6 の前後両端部上面にそれぞれ対向するスポンジ等の弾性部材 5 6, 5 6 … が一對ずつ取付けられ、連結板 5 2, 5 2 には C D チェンジャー 2 6 の前後両端部下面にそれぞれ対向するスポンジ等の弾性部材 5 7, 5 7 … が一對ずつ取付けられ、急激な荷重の作用による C D チェンジャー 2 6 の連結板 4 7, 4 9, 5 2 … との衝撃がそれらの弾性部材 5 6 …, 5 7 … で緩和される。また横枠板 5 1, 5 1 の下部上面には、急激な荷重の作用による内側支持板 3 9, 3 9 およびダンパ 4 2 … の横枠板 5 1, 5 1 との衝撃を緩和するためのスポンジ等の弾性部材 5 8, 5 8 が取付けられる。

【 0 0 2 1 】

C D チェンジャー 2 6 を覆う蓋板 3 8 は、前記支持枠 5 3 における外側支持板 4 3, 4 3 の取付け部 4 3 a, 4 3 a に、たとえば複数のねじ部材 5 9 … と、それらのねじ部材 5 9 … に対応して取付け部 4 3 a, 4 3 a に固着されるウェルドナット 6 0 … とで取付けられる。

【 0 0 2 2 】

ところで、C D チェンジャー支持装置 3 5 に C D チェンジャー 2 6 を取り付ける前には、両取付け板 3 9, 3 9 の位置が定まらず、C D チェンジャー 2 6 の両側に取付け板 3 9, 3 9 を取り付ける際の位置合わせが難しくなる。

【 0 0 2 3 】

そこで、C D チェンジャー 2 6 の取外し状態では、支持枠 5 3 において両外側支持板 4 1, 4 1 の上部間を連結する連結板 4 8 と、両内側支持板 4 1, 4 1 との間に、図 1 1 で示すようにストッパ 6 1 … がそれぞれ着脱可能にセットされる。

【 0 0 2 4 】

図 1 2 ～ 図 1 4 において、連結板 4 8 に対応する位置で取付け板 3 9 の上部には外側方に張出す部 3 9 a が一体に設けられ、該部 3 9 a には位置決め孔 6 2 が設けられる。

【 0 0 2 5 】

ストッパ 6 1 は、前記部 3 9 a および連結板 4 8 間に挿入されるようにして連結板 4 8 に着脱可能に締結されるものであり、連結板 4 8 の下面にねじ部材 6

3により締結される取付け板部61aと、該取付け板部61aの外端から下方に延びて前記錨部39aの上面に当接する間隔保持部61bと、前記位置決め孔62に挿入されるようにして間隔保持部61bの下端から突出される位置決め突部61cと、連結板48の前後いずれかから上方に突出するようにして間隔保持部61bに連設される耳部61dとを一体に備えるものであり、位置決め突部61cが取付け板39の上部外面に対向して位置決め孔62に挿入されることにより取付け板39の鉛直姿勢が保持され、またばね45…で上方に付勢されている取付け板39の上下位置は間隔保持部61bが錨部41aの上面に当接することにより一定に保持される。

【0026】

また耳部61dは、ストッパ61のセット時には連結板48よりも上方に突出するので、ストッパ61がセットされているか否かを容易に見分けることができる。しかも左右一对の取付け板39、39に対して同一形状のストッパ61…が用いられるので、耳部61d…は、一对の取付け板39、39の一方側では連結板48の後方側に配置されるのに対して両取付け板39、39の他方側では連結板48の前方側に配置されることになる。

【0027】

前記ねじ部材63…の締付けにより、各ストッパ61…を連結板48および取付け板39、39間にセットすると、支持棒53に対する取付け板39、39の3次元相対位置を一定に保持することが可能となり、これにより、CDチェンジャー26の両側の取付け板39、39を内側支持板41、41に取り付ける際の位置合わせが容易となる。またCDチェンジャー支持装置35の運搬時に各ストッパ61…をセットしておくことにより、CDチェンジャー26が振動しないように固定、保持することができる。

【0028】

支持棒53は、CDチェンジャー26および支持棒53の両側に配置される一对のベース板66、66に回動支持手段37を介して回動自在に支承されるものであり、両ベース板66、66は、車体Bの一部である車体フレームFがその後部に備えてトランク24の両側下方に配置される横断面矩形状のシートレール6

7, 67に固定される。

【0029】

図5および図6に注目して、トランク24におけるトランク主部24aの左右両側には、前記両シートレール67, 67の上方に配置される支持段部68, 68が形成されており、前記ベース板66, 66は、前記支持枠53における両外側支持板43, 43の取付け部43a, 43aの下方であって前記支持段部68, 68の上方に配置される。

【0030】

前記支持段部68, 68の下方でシートレール67, 67の上部にはベース支持枠69, 69が被せられ、シートレール67…の周方向に沿うベース支持枠69, 69の一端に一端に係合されるバンド70, 70の他端が、シートレール67…の周方向に沿うベース支持枠69, 69の他端にボルト71…およびウエルドナット72…で締結される。すなわちベース支持枠69…はトランク24の支持段部68, 68の下方でシートレール67…に固着されるものであり、これらのベース支持枠69…には、前記支持段部68…を貫通して上方に延びる円筒状の支持脚73, 73…の下端がそれぞれ一対ずつ固着される。

【0031】

各支持脚73, 73…の上端はベース板66, 66の下面に当接するものであり、ベース板66, 66にそれぞれ一対ずつ挿通されるねじ部材74, 74…が下記支持脚73, 73…の上部に螺合される。すなわち各ねじ部材74, 74…を締めつけることにより、ベース板66, 66は支持脚73, 73…を介して車体フレームFのシートレール67, 67に固定されることになる。

【0032】

またベース板66, 66と、トランク24の支持段部68, 58との間には下記支持脚73, 73…を貫通させるスペーサ75, 75が介装される。

【0033】

図15において、回動支持手段37は、前記支持枠53における外側支持板43の後端部と、前記ベース板66の後端部に一体に設けられて外側支持板43の後端部に対向する支持板部66aとの間に設けられるものであり、支持板部66

a を貫通して外側支持板 4 3 に固定されるボルト 7 6 と、ベース板 6 6 および外側支持板 4 3 間に設けられるねじりばね 7 7 とを備える。

【 0 0 3 4 】

ベース板 6 6 の支持板部 6 6 a および外側支持板 4 3 間には第 1 カラー 7 9 が介装されており、第 1 カラー 7 9 との間に支持板部 6 6 a を挟む鰐部 8 0 a を備える第 2 カラー 8 0 が第 1 カラー 7 9 に同軸に当接するようにして支持板部 6 6 a に装着され、さらに前記鰐部 8 8 a に一端が同軸に当接される第 3 カラー 8 1 の他端部には鰐部 8 1 a が一体に設けられる。而してボルト 7 6 は、その拡径頭部 7 6 a および外側支持板 4 3 間にワッシャ 7 8 を介在するようにして、外側支持板 4 3 および第 1 ～第 3 カラー 7 9 ～8 1 に挿通され、ボルト 7 6 の第 3 カラー 8 1 からの突出部に螺合されるナット 8 2 を、第 3 カラー 8 1 の鰐部 8 1 a に当接するまで締め付けることによりボルト 7 6 が外側支持板 4 3 に固定され、外側支持板 4 3 は、ボルト 7 6 を介してベース板 6 6 に回動可能に支承されることになる。またねじりばね 7 7 は、第 3 カラー 8 1 を囲繞するようにしてベース板 6 6 および外側支持板 4 3 間に設けられる。

【 0 0 3 5 】

このような回動支持手段 3 7, 3 7 により、C Dチェンジャー 2 6 の前面を底壁 3 0 の内面から荷室 3 1 内に突出させる突出位置ならびに C Dチェンジャー 2 6 を収納凹部 3 2 内に収納させる収納位置間での回動を可能とするとともに、突出位置側にばね付勢されるようにして、両外側支持板 4 3, 4 3 すなわち支持棒 5 3 がベース板 6 6, 6 6 に支承されることになる。

【 0 0 3 6 】

ところで、蓋板 3 8 は、C Dチェンジャー 2 6 の前後に沿う前方側の係合位置および後方側の係合解除位置間でのスライドを可能として支持棒 5 3 の両外側支持板 4 3, 4 3 に取付けられるものであり、蓋板 3 8 を両外側支持板 4 3, 4 3 に取付けるためのねじ部材 5 9 …は、外側支持板 4 3, 4 3 に対する前記係合位置および係合解除位置間での蓋板 3 8 のスライドを可能とするために、前後方向に長く延びて蓋板 3 8 に設けられた長孔 8 3 …に挿通される。

【 0 0 3 7 】

蓋板 3 8 の前後方向中間部両側には、上方に隆起して前後に延びる隆起部 3 8 a, 3 8 a が一体に形成されており、両端を隆起部 3 8 a, 3 8 a 内に臨ませるようして蓋板 3 8 の幅方向に延びるプレート 8 4 が一對のねじ部材 8 5, 8 5 で蓋板 3 8 の内面に締結され、該プレート 8 4 の両端には、C D チェンジャー 2 6 の左右方向に延びる係合部 8 6, 8 6 として機能する棒材が固着される。すなわち蓋板 3 8 の両側に係合部 8 6, 8 6 が設けられている。

【 0 0 3 8 】

一方、ベース板 6 6 …の前端には、蓋板 3 8 が係合位置にあるときには前記係合部 8 6 …を下方から係合させて C D チェンジャー 2 6 の収納位置を維持する係止部 8 7 …が一体に形成され、これらの係止部 8 7 …は前記蓋板 3 8 の隆起部 3 8 a …内に収納される。しかも係止部 8 7 …は、蓋板 3 8 が係合位置から係合解除位置にスライドしたときには、前記係合部 8 6 …との係合を解除するものでり、係止部 8 7 …および係合部 8 6 …の係合が解除されたときに、回動支持手段 3 7 におけるねじりばね 7 7 のばね力によって蓋板 3 8 は突出位置側に回動することになる。

【 0 0 3 9 】

また蓋板 3 8 が係合解除位置および係合位置間でスライドするときに係合部 8 6 …を乗り換えさせるクリックばね 8 8 …が支持枠 5 3 に設けられる。このクリックばね 8 8 …は、中間部を上方に彎曲させた板ばねから成るものであり、C D チェンジャー 2 6 が収納位置にある状態で前記係止部 8 7 …に前方から対向するようして、支持枠 5 3 の前端における連結板 4 7 の両端に取付けられる。

【 0 0 4 0 】

また蓋板 3 8 の後端には、可撓性を持たせるために薄肉とされた舌部 3 8 b が、トランク 2 4 の底壁 3 0 に摺接するようして一体に形成される。

【 0 0 4 1 】

図 1 6 および図 1 7 を併せて参照して、蓋板 3 8 および支持枠 5 3 間には、蓋板 3 8 を係合位置でロックするとともにそのロック状態を手動操作によって解除し得るロック機構 8 9 が設けられる。

【 0 0 4 2 】

このロック機構 8 9 は、支持棒 5 3 側に固定される板ばね 9 0 と、蓋板 3 8 が係合位置にあるとときに前記板ばね 9 0 の一部を弾発係合させるようにして蓋板 3 8 に設けられる係合孔 9 1 とで構成される。

【 0 0 4 3 】

支持棒 5 3 が前端上部に備える連結板 4 7 の幅方向中央部には、連結板 4 7 から前方に延びる平板状のばね支持板 9 2 が固着されており、前記板ばね 9 0 の前端が該ばね支持板 9 2 に、たとえば一对のリベット 9 3, 9 3 等によって固着される。板ばね 9 0 の後部には、上方に隆起した弾発係合部 9 0 a が形成されており、ばね支持板 9 2 には該弾発係合部 9 0 a を挿通させる透孔 9 4 が設けられる。

【 0 0 4 4 】

前記弾発係合部 9 0 a は、蓋板 3 8 が係合位置にあるとときに該蓋板 3 8 の係合孔 9 1 に係合可能であり、弾発係合部 9 0 a の係合孔 9 1 への係合状態では蓋板 3 8 が係合位置に保持される。而して弾発係合部 9 0 a を上方から押し込むことによって係合孔 9 1 との係合を解除すると、図 1 8 および図 1 9 で示すように、蓋板 3 8 はその内面に前記弾発係合部 9 0 a を摺接させながら係合解除位置側に前進スライドすることができ、その前進スライドにより、係合部 8 6 … および係止部 8 7 … の係合が解除されることになる。

【 0 0 4 5 】

而して係合部 8 6 … および係止部 8 7 … の係合が解除されるのに応じて、支持棒 5 3 は、回動支持手段 3 7 におけるねじりばね 7 7 … のばね力により、図 2 0 で示すように上方にはね上げられることになり、それにより支持棒 5 3 で浮動支持された C D チェンジャー 2 6 が突出位置となる。この際、支持棒 5 3 の突出位置側への回動端を規制するために、支持棒 5 3 における縦棒板 5 0 … には、ベース板 6 6 … に下方から係合する規制突部 9 5 … が一体に突設される。また支持棒 5 3 の突出位置への回動に応じて蓋板 3 8 の舌部 3 8 b は図 2 0 で示すように収納凹部 3 2 の後端縁に接触したまま屈曲することになる。

【 0 0 4 6 】

前記係合孔 9 1 の側方で蓋板 3 8 には窓 9 6 が設けられており、支持棒 5 3 に

固着されたばね支持板 9 2 には、蓋板 3 8 が係合位置および係合解除位置間でスライドするのに応じて前記窓 9 6 に臨む部分の表示を異ならせるようにしたインジケータ 9 7 が設けられる。

【 0 0 4 7 】

インジケータ 9 7 は、たとえばラベルをばね支持板 9 2 の上面に接着することにより形成されるものであり、蓋板 3 8 が係合位置にあるときに前記窓 9 6 に臨む第 1 表示部 9 8 と、蓋板 3 8 が係合解除位置にあるときに前記窓 9 6 に臨む第 2 表示部 9 9 とを備える。而して第 1 表示部 9 8 が、たとえば緑色に着色されるのに対し、第 2 表示部 9 9 は、たとえば赤色に着色される。

【 0 0 4 8 】

次にこの実施例の作用について説明すると、C Dチェンジャー 2 6 の両側にそれぞれ取付けられる取付け板 3 9、3 9 を、車体 B に固定されて C Dチェンジャー 2 6 の両側にそれぞれ配置されるベース板 6 6、6 6 に浮動支持するための浮動支持手段 3 6 は、両取付け板 3 9、3 9 に外側からそれぞれ対向する一対の内側支持板 4 1、4 1 と、両内側支持板 4 1 …に対する鉛直面内での両取付け板 3 9 …の変位を緩衝するようにして内側支持板 4 1 …および取付け板 3 9 …の前後 2 箇所ずつを連結するダンパ 4 2、4 2 …と、両内側支持板 4 1 …に外側からそれぞれ対向して両ベース板 6 6 …に支持される一対の外側支持板 4 3、4 3 と、外側支持板 4 3 …に対する鉛直面内での内側支持板 4 1 …の変位を緩衝するようにして外側支持板 4 3 …および内側支持板 4 1 …の前後 2 箇所ずつを連結するダンパ 4 4、4 4 …と、C Dチェンジャー 2 6 の重量に対抗するばね力を発揮するようにして両取付け板 3 9 …および両外側支持板 4 3 …間にそれぞれ一対ずつ設けられる吊下げばね 4 5 …とで構成される。

【 0 0 4 9 】

このような浮動支持手段 3 6 の構成によれば、車体 B の車体フレーム F に支持された一対のベース板 6 6、6 6 からの振動は、前後一対ずつ 2 組のダンパ 4 4、4 4 …の緩衝作用により減衰されて両外側支持板 4 3、4 3 から両内側支持板 4 1、4 1 に伝達され、さら前後一対ずつ 2 組のダンパ 4 2、4 2 …の緩衝作用により減衰されて両内側支持板 4 1、4 1 から C Dチェンジャー 2 6 に伝達され

ることになり、片側 4 個ずつ合計 8 個のダンパ 4 2, 4 2 …; 4 4, 4 4 …による大きな減衰力および吊下げばね 4 5 …による減衰力で車体からの振動が C D チェンジャーに伝わるのを極力抑制することができる。したがって車体 B に作用する衝撃が大きくてもその衝撃を緩和して C D チェンジャー 2 6 での音飛びの発生をより確実に防止し、衝撃の作用によって C D チェンジャー 2 6 にダメージが及ぶことも確実に防止することができる。

【 0 0 5 0 】

また前記両ベース板 6 6, 6 6 は、C D チェンジャー 2 6 の両側で車体フレーム F に一対ずつ固着された支持脚 7 3, 7 3 …の上部に固着されており、車体フレーム F 側からの振動を減衰する浮動支持手段 3 6 を介して C D チェンジャー 2 6 が両ベース板 6 6, 6 6 に支持されるので、車体フレーム F の振動がトランク 2 4 に伝達されてもトランク 2 4 から C D チェンジャー 2 6 に振動が伝わることはなく、車体フレーム F の振動が浮動支持手段 3 6 で減衰されて C D チェンジャー 2 6 に伝わることになるので、C D チェンジャー 2 6 に作用する振動を抑制することができる。

【 0 0 5 1 】

さらに C D チェンジャー 2 6 の前後に沿う前方側の係合解除位置および後方側の係合位置間でのスライドを可能として支持枠 5 3 に蓋板 3 8 が取付けられており、この蓋板 3 8 に設けられた係合部 8 6, 8 6 を該蓋板 3 8 が係合位置にある状態で係合せしめて C D チェンジャー 2 6 の収納位置を維持する係止部 8 7, 8 7 が、蓋板 3 8 の係合解除位置へのスライドに応じて係合部 8 6 …との係合を解除して C D チェンジャー 2 6 を突出位置に回動させるようにして両ベース板 6 6 …に設けられ、蓋板 3 8 および支持枠 5 3 間には、蓋板 3 8 を係合位置でロックするとともにそのロック状態を手動操作に応じて解除し得るロック機構 8 9 が設けられている。

【 0 0 5 2 】

したがって C D チェンジャー 2 6 を収納位置から突出位置に回動するには、ロック機構 8 9 を手動操作によってロック解除状態とした後に、蓋板 3 8 を係合位置から係合解除位置にスライド操作する必要があり、車体 B の振動に伴って C D

チェンジャー 2 6 が不所望に突出位置に回動してしまうことを確実に防止し、必要なときだけに C D チェンジャー 2 6 を突出位置に回動させるようにすることができる。

【 0 0 5 3 】

しかも蓋板 3 8 の係合解除位置および係合位置間でのスライド時に係合部 8 6 …の乗り越えを強制するクリックばね 8 8 …が、支持枠 5 3 に設けられるので、蓋板 3 8 を係合位置および係合解除位置間でスライド操作する際にクリック感を得ることができ、蓋板 3 8 のスライド操作時に操作者が確実な操作感を得ることができる。

【 0 0 5 4 】

また係合部 8 6 … C D チェンジャー 2 6 の左右方向に延びるようにして蓋板 3 8 の内面に設けられ、係止部 8 7 …は、係合部 8 6 …を下方から係合させるようにして両ベース板 6 6 …の前端に設けられ、板ばねから成るクリックばね 8 8 …は、C D チェンジャー 2 6 が収納位置にある状態で係止部 8 7 …に前方側から対向するようにして支持枠 5 3 に固定されているので、クリック感を得るための構造によって支持枠 5 3 が厚み方向に大型化することを回避し、トランク 2 4 に設けられる収納凹部 3 2 が深くならないようにすることができる。

【 0 0 5 5 】

さらに蓋板 3 8 に窓 9 6 が設けられ、蓋板 3 8 が係合位置および係合解除位置間でスライドするのに応じて窓 9 6 に臨む部分の表示を異ならせるようにしたインジケータ 9 7 が支持枠 5 3 のばね支持板 9 2 に設けられるので、蓋板 3 8 のスライド位置を操作者に確実に認識させることができる。

【 0 0 5 6 】

以上、本発明の実施例を説明したが、本発明は上記実施例に限定されるものではなく、特許請求の範囲に記載された本発明を逸脱することなく種々の設計変更を行うことが可能である。

【 0 0 5 7 】

【発明の効果】

以上のように本発明によれば、車体フレームの振動がトランクに伝達されても

トランクからＣＤチェンジャーに振動が伝わらないようにし、車体フレームの振動が浮動支持手段で減衰されてＣＤチェンジャーに伝わるようにしたので、ＣＤチェンジャーに作用する振動を抑制することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

自動二輪車の側面図である。

【図 2】

開放状態にあるトランクの斜視図である。

【図 3】

図 2 の 3 矢視拡大図である。

【図 4】

ＣＤチェンジャーを突出位置に回動した状態での図 2 に対応した斜視図である。

【図 5】

図 3 の 5 - 5 線拡大断面図である。

【図 6】

図 5 の 6 - 6 線断面図である。

【図 7】

蓋板を取外した状態でのＣＤチェンジャー支持装置の側面図である。

【図 8】

図 7 の 8 - 8 線矢視図である。

【図 9】

図 8 の要部拡大図である。

【図 1 0】

蓋板を取付けた状態での図 7 の 1 0 - 1 0 線に沿う断面図である。

【図 1 1】

ＣＤチェンジャー支持装置の分解斜視図である。

【図 1 2】

ＣＤチェンジャーを取付ける前のＣＤチェンジャー支持装置の側面図である。

【図 1 3】

図 1 2 の 1 3 - 1 3 線拡大断面図である。

【図 1 4】

図 1 3 の 1 4 - 1 4 線断面図である。

【図 1 5】

図 5 の 1 5 - 1 5 線拡大断面図である。

【図 1 6】

図 8 の 1 6 - 1 6 線拡大断面図である。

【図 1 7】

図 8 の 1 7 - 1 7 線拡大断面図である。

【図 1 8】

蓋板を係合解除位置にスライドさせたときの図 8 に対応した図である。

【図 1 9】

蓋板を係合解除位置にスライドさせたときの図 1 5 に対応した図である。

【図 2 0】

C Dチェンジャーを突出位置とするように支持棒が回転したときの図 1 9 に対応した図である。

【符号の説明】

2 4 . . . トランク

2 6 . . . C Dチェンジャー

2 9 . . . リヤフェンダー

3 6 . . . 浮動支持手段

6 6 . . . ベース板

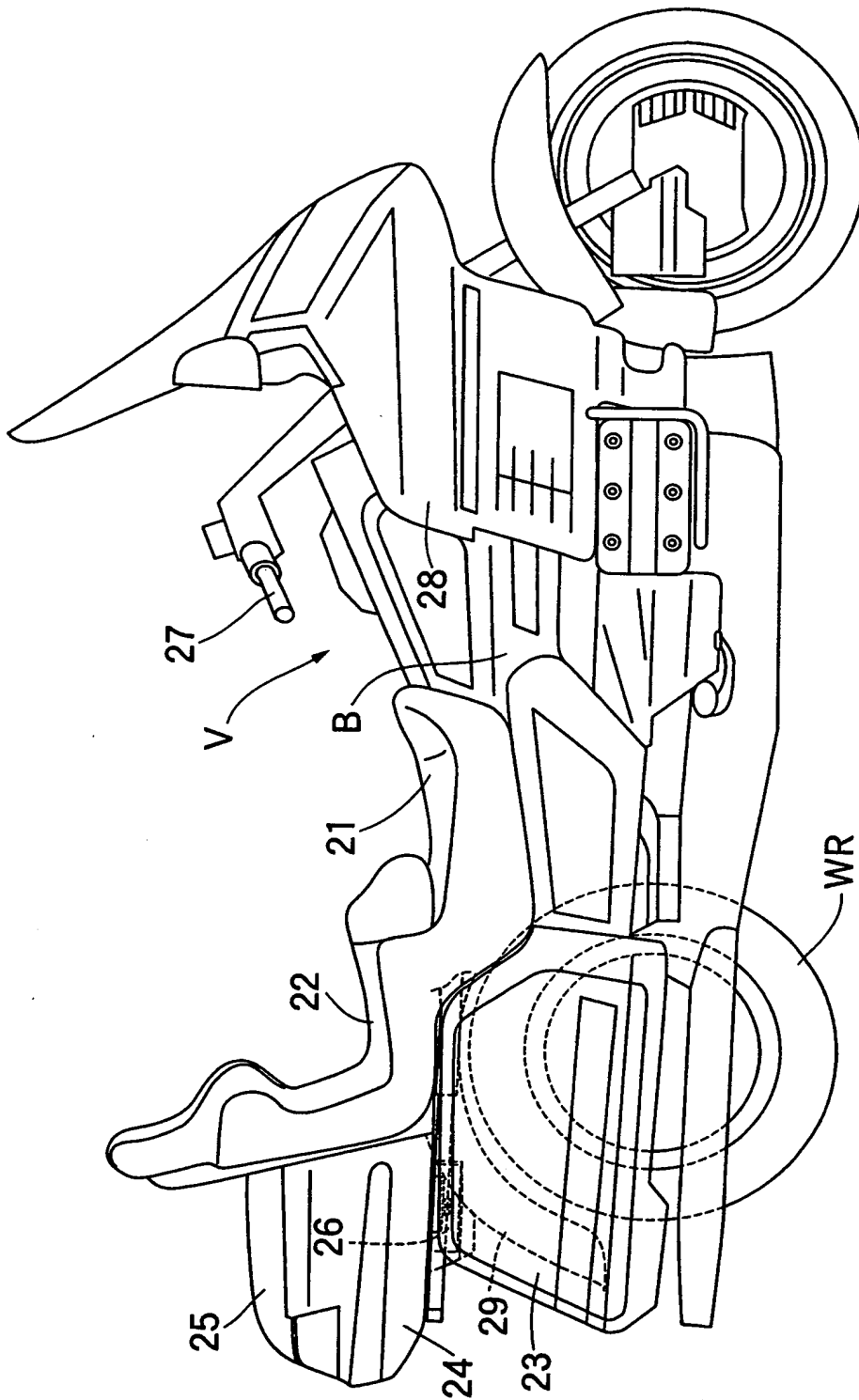
7 3 . . . 支持脚

F . . . 車体フレーム

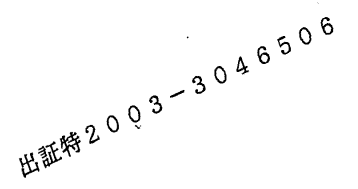
W R . . . 後輪

【書類名】 図面

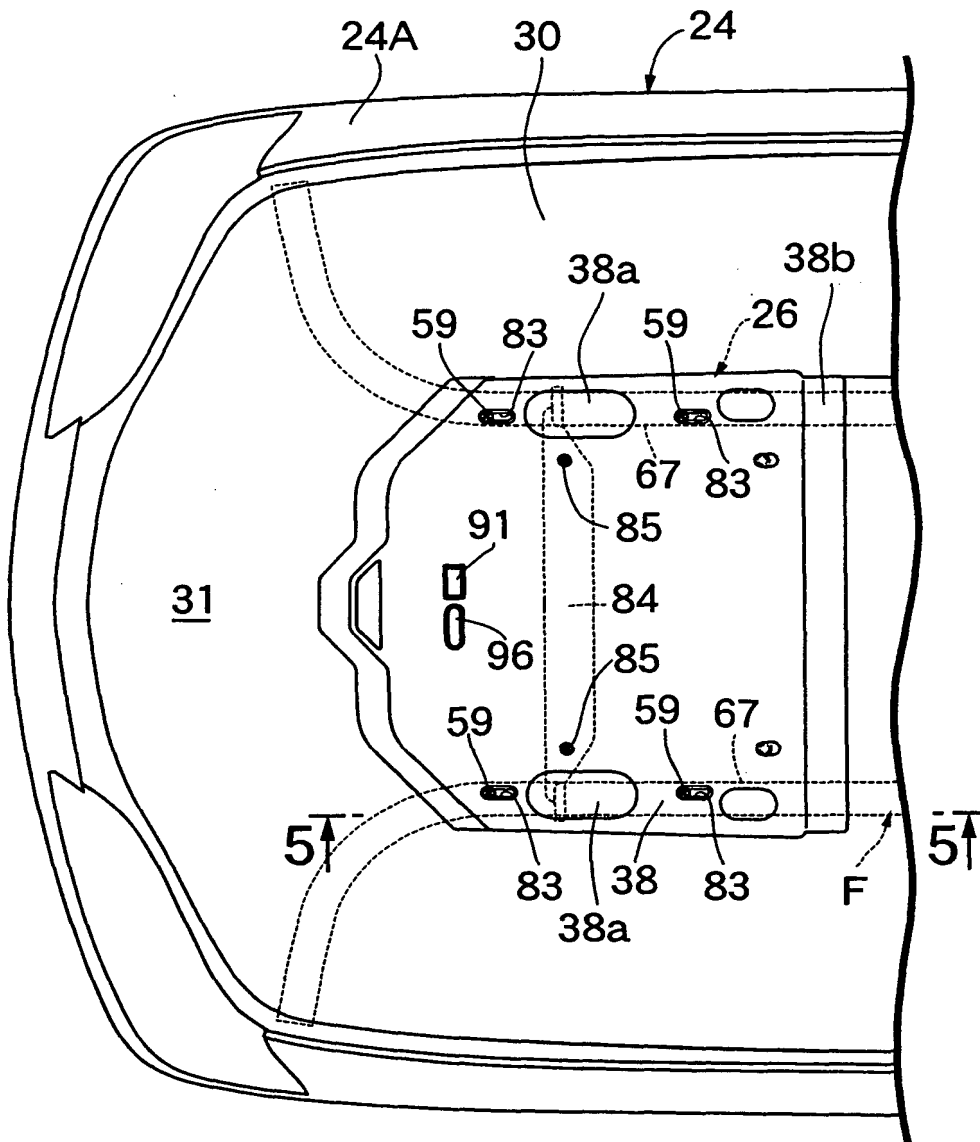
【図 1】



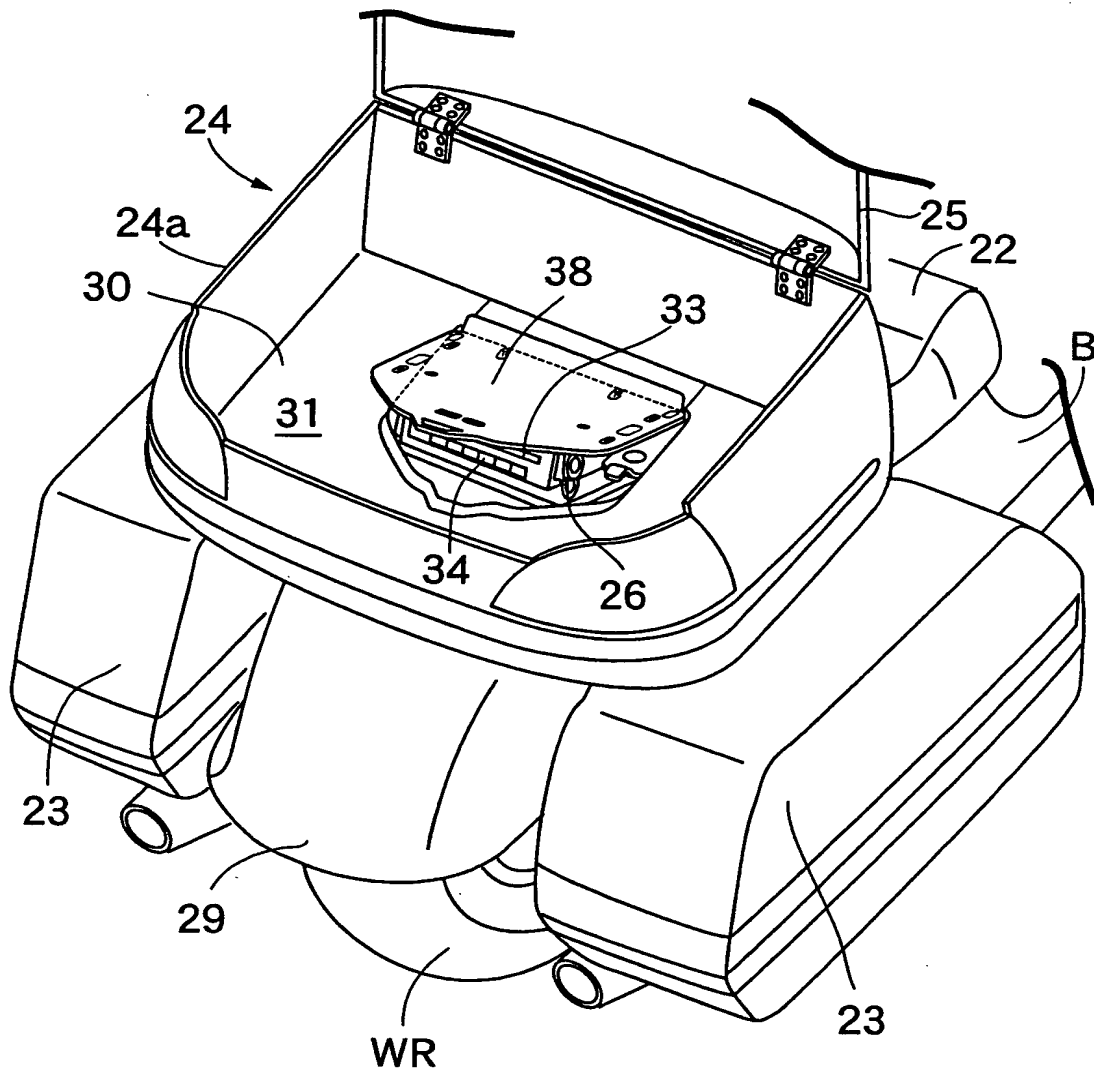
【图21】



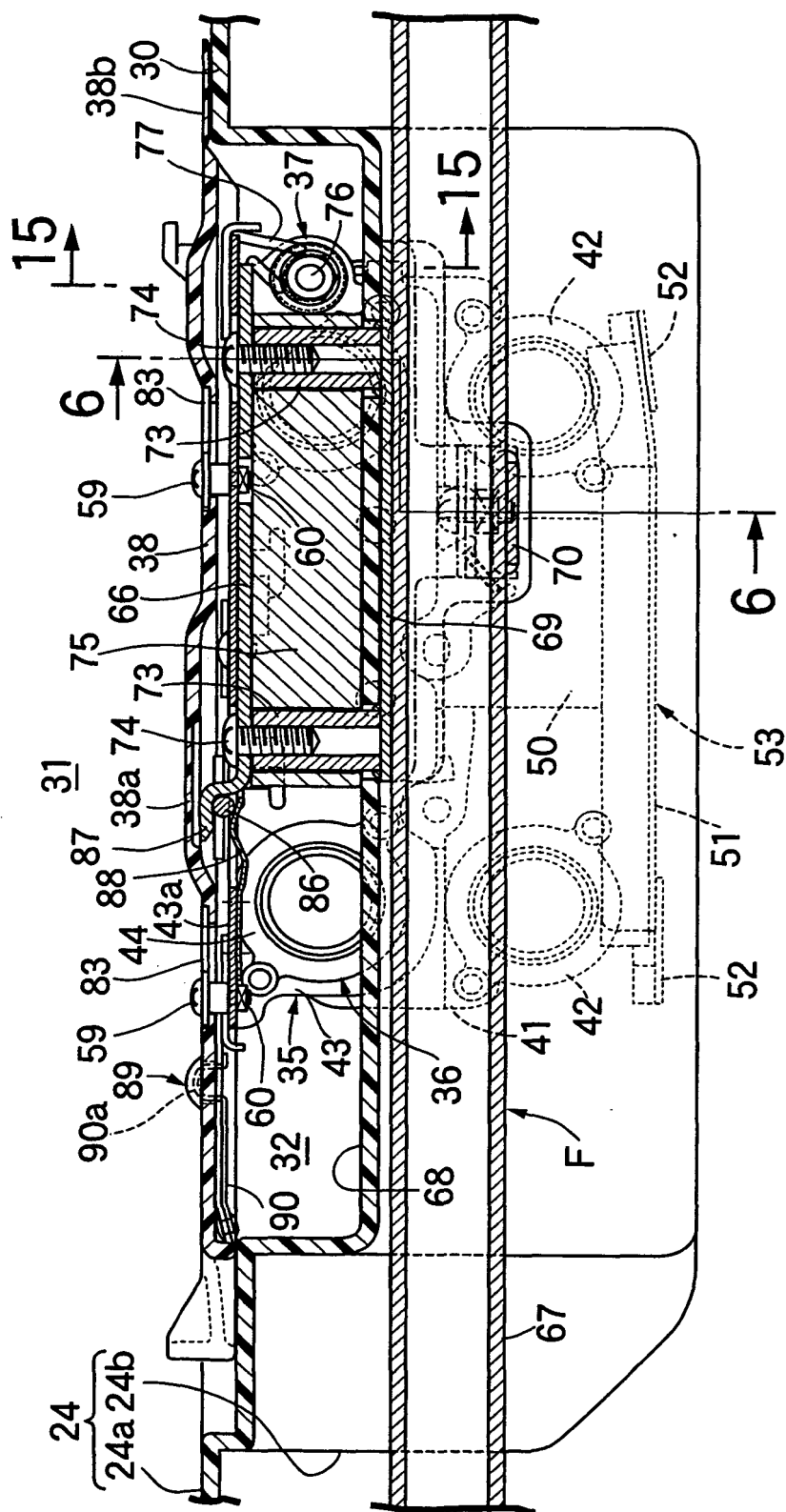
【図 3】



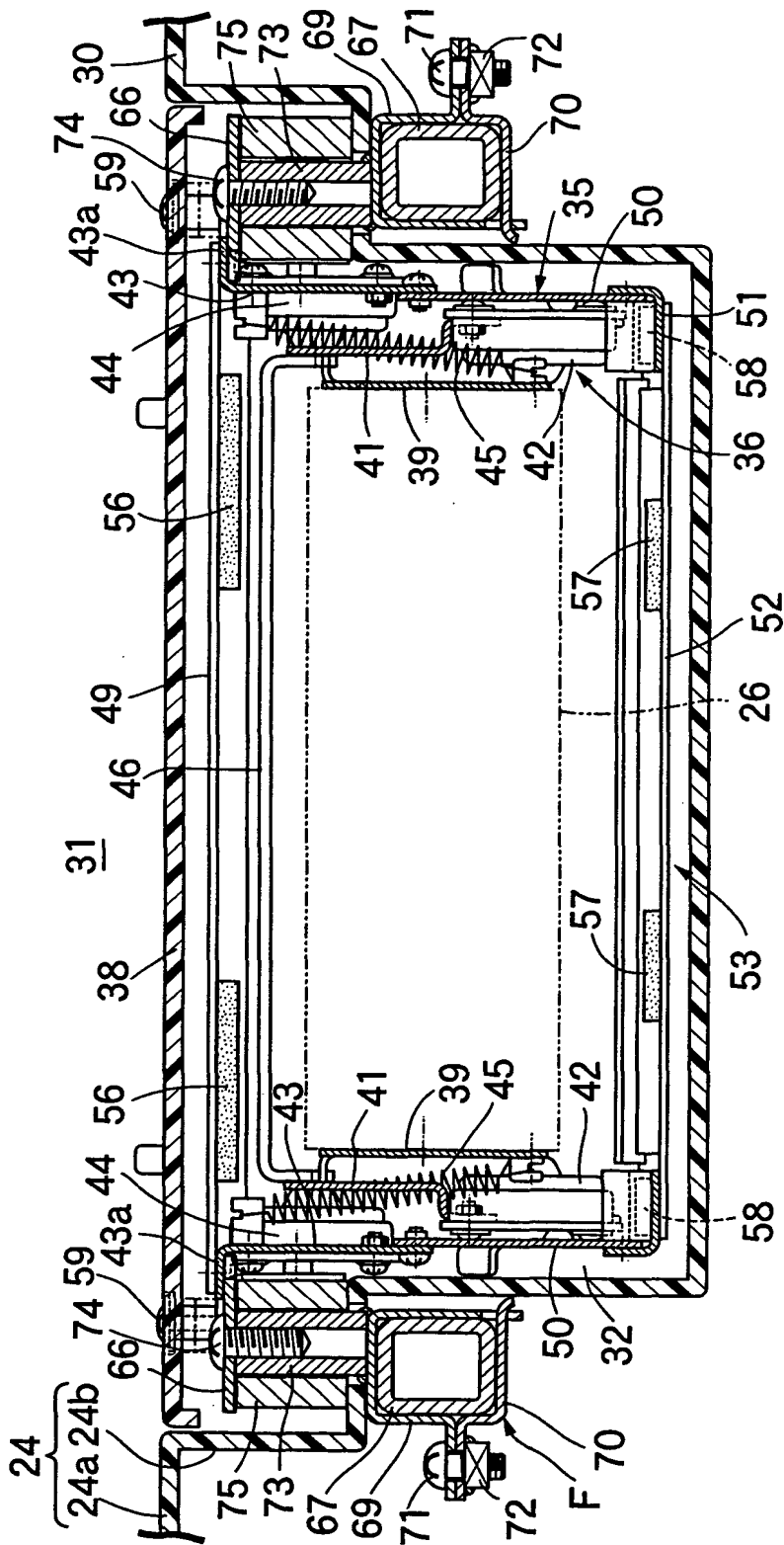
【図 4】



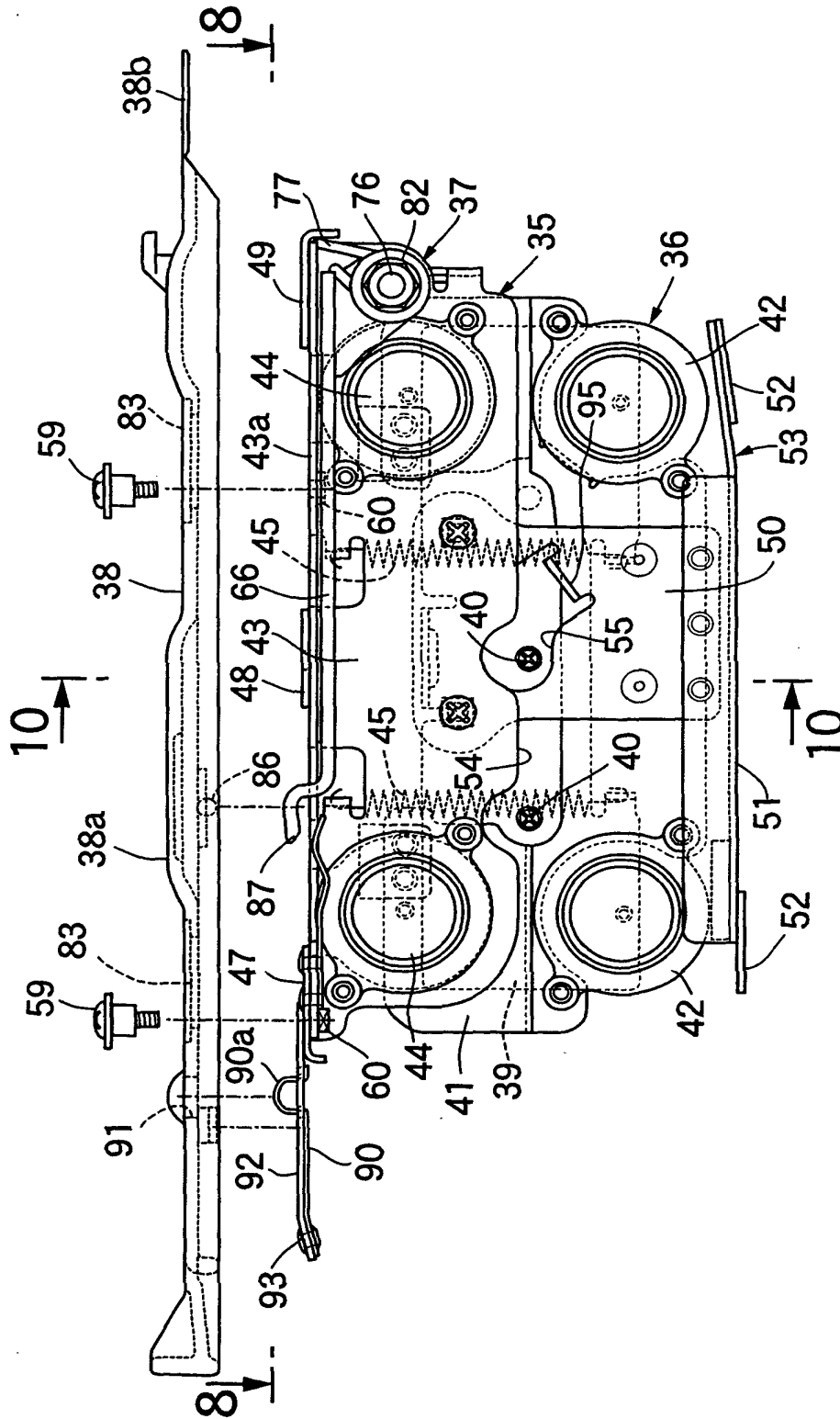
【図 5】



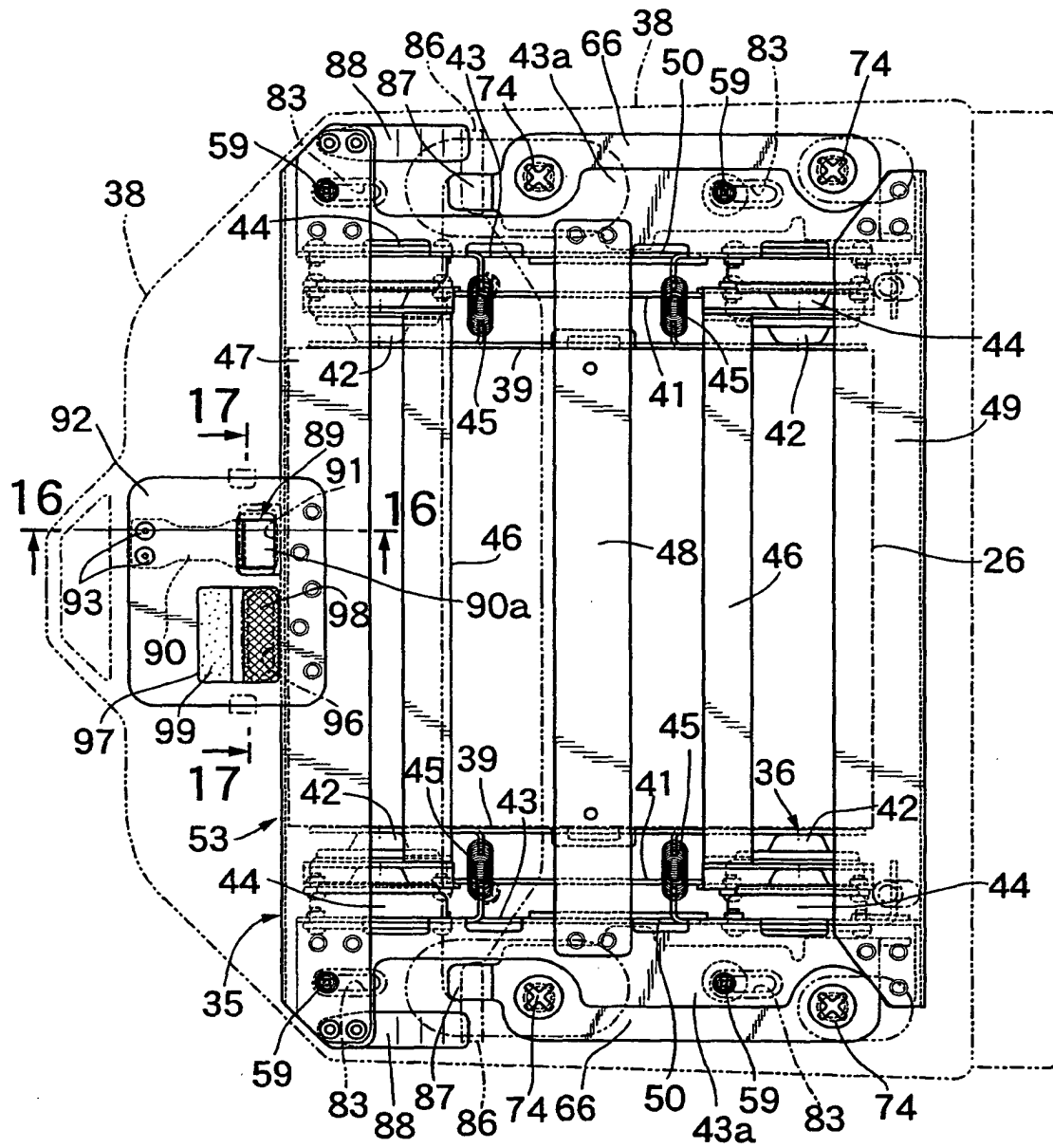
【図 6】



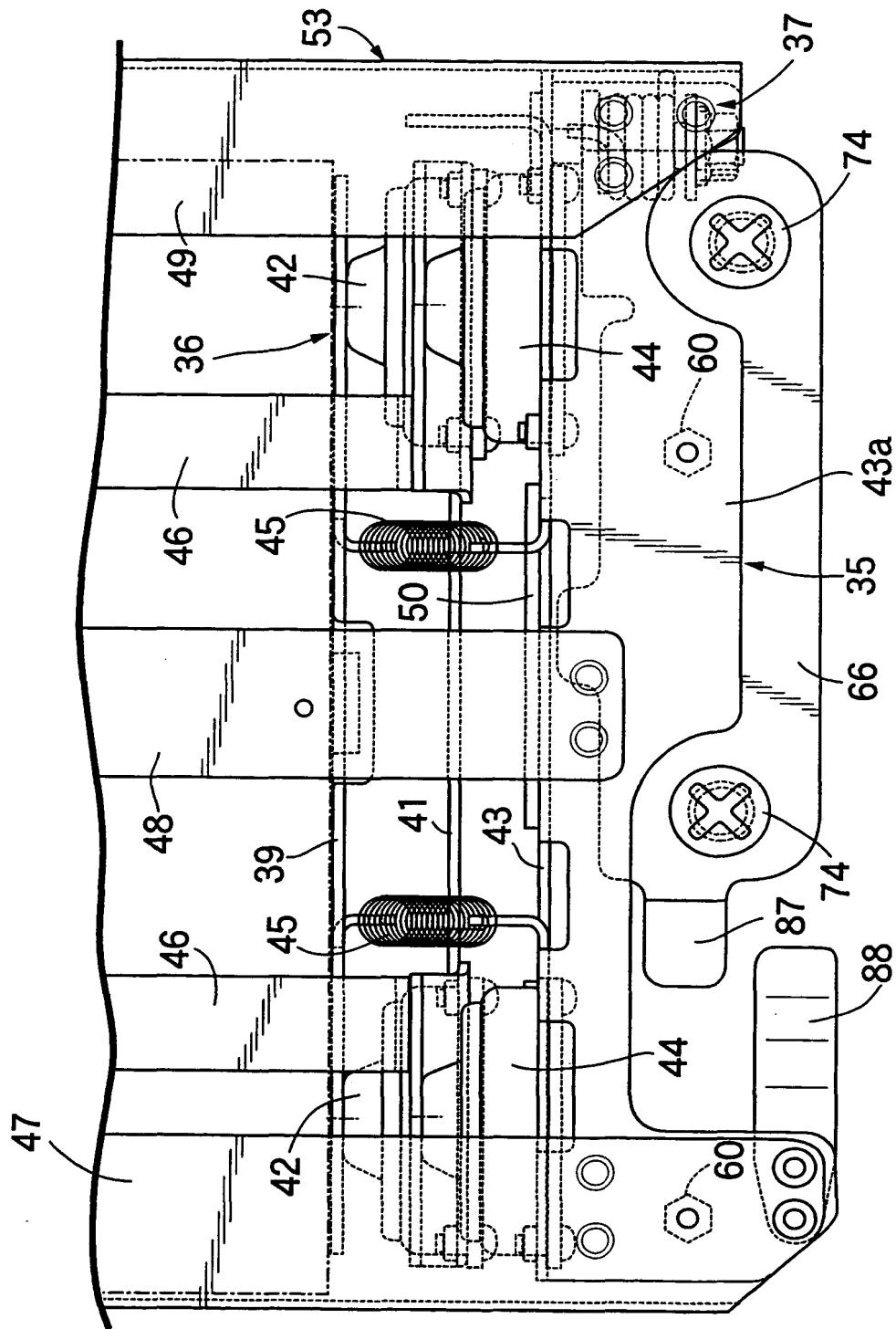
【図 7】



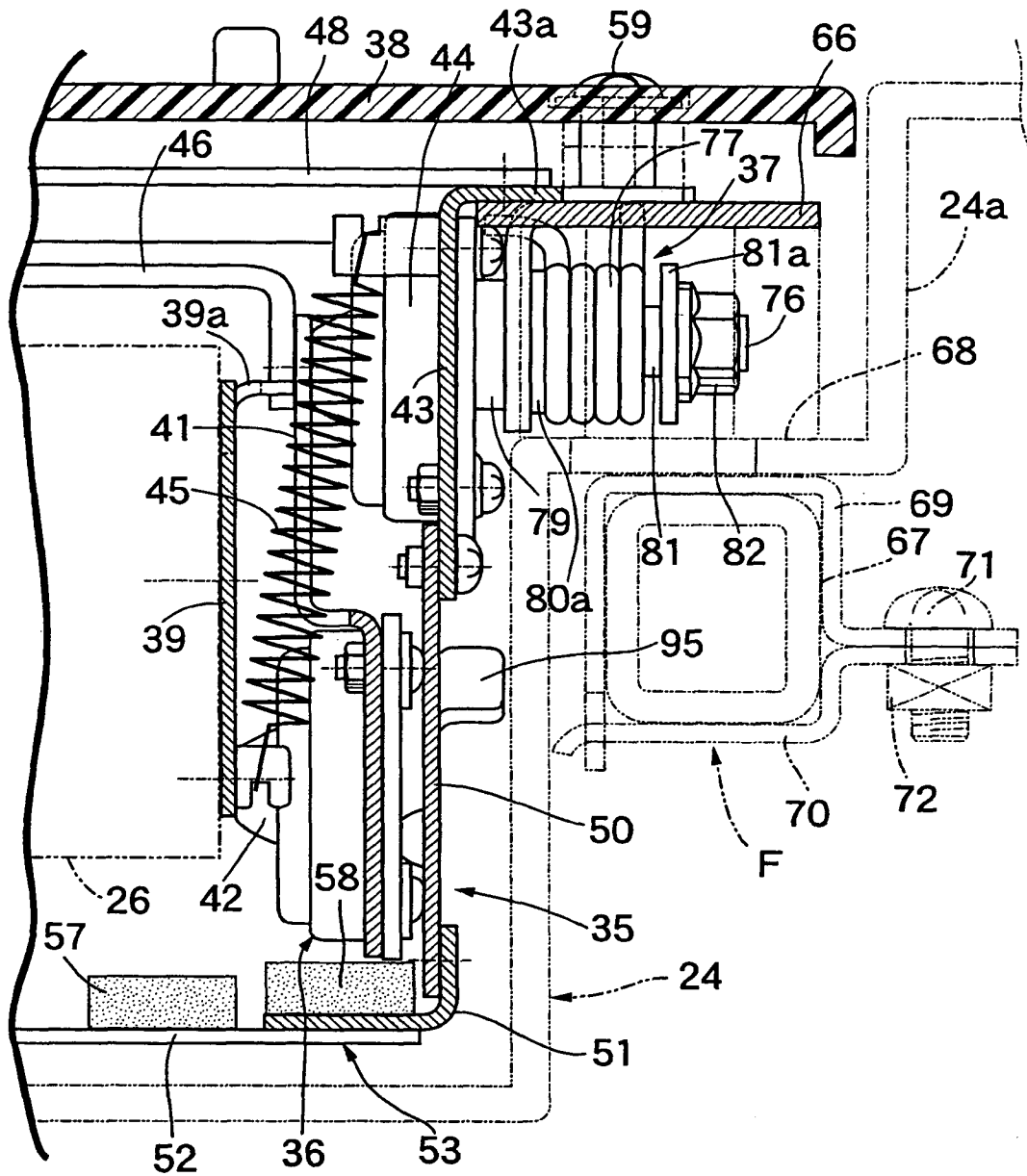
【図8】



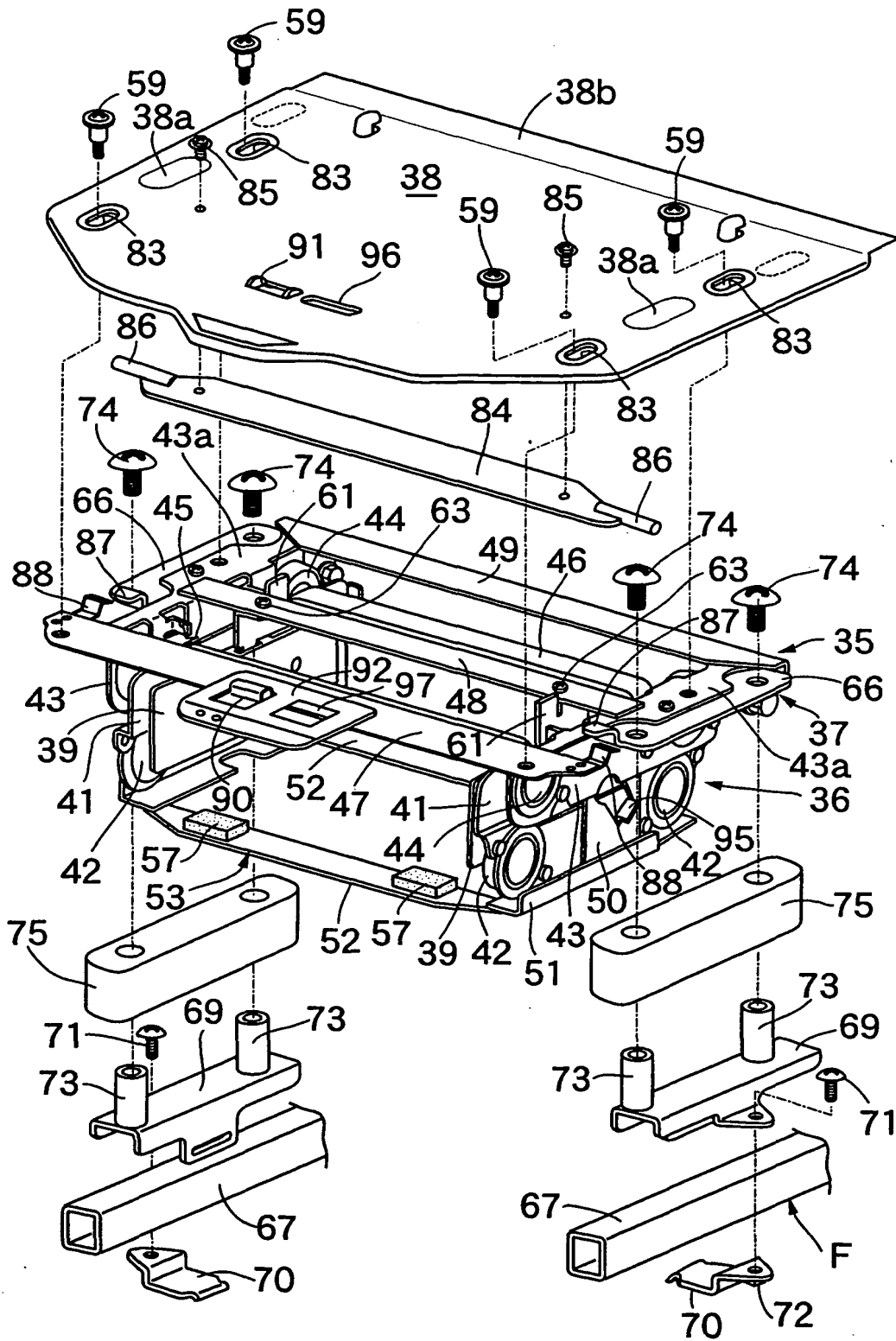
【図 9】



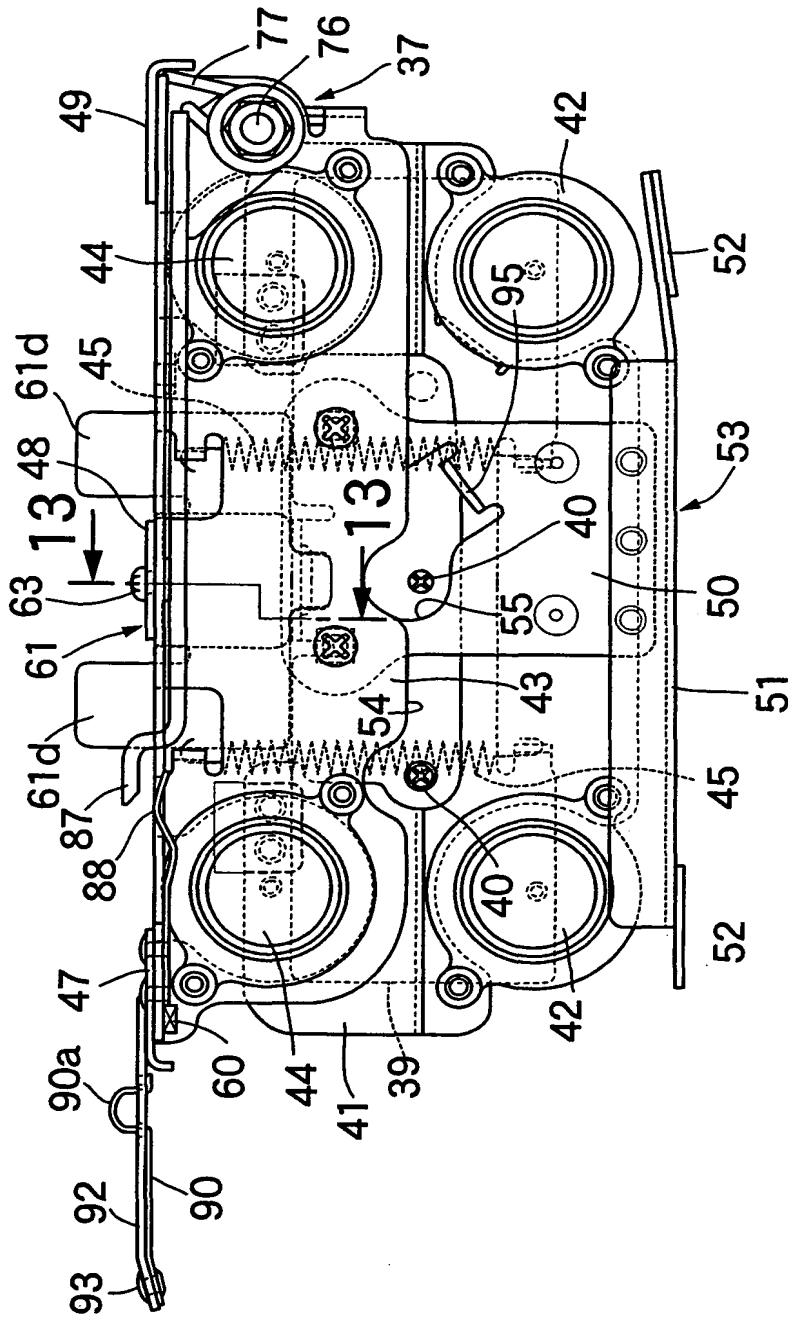
【図10】



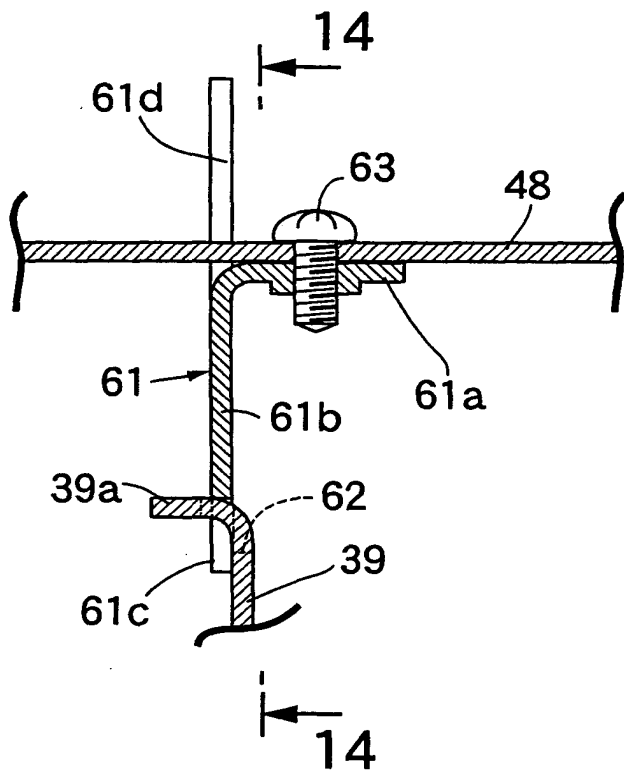
【図11】



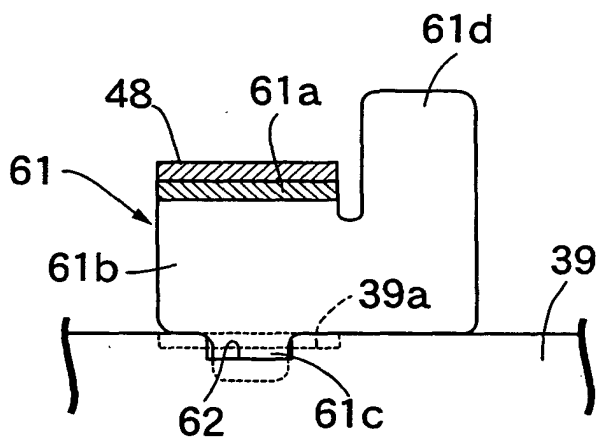
【図 12】



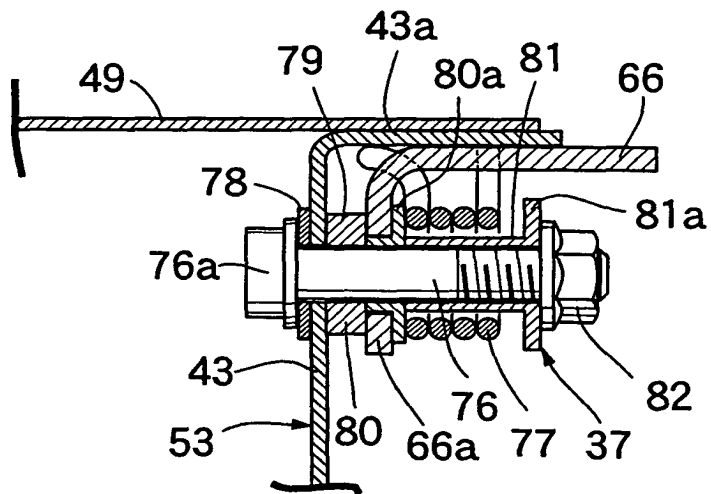
【図 13】



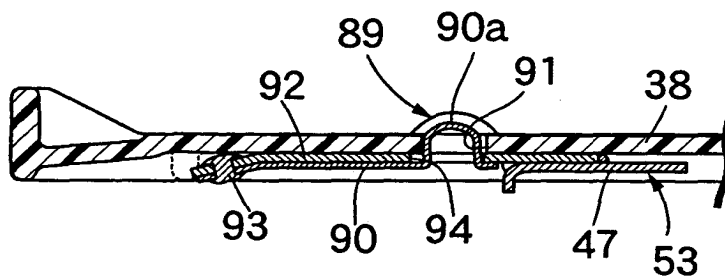
【図 14】



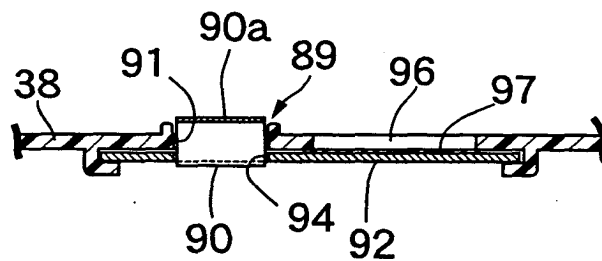
【図15】



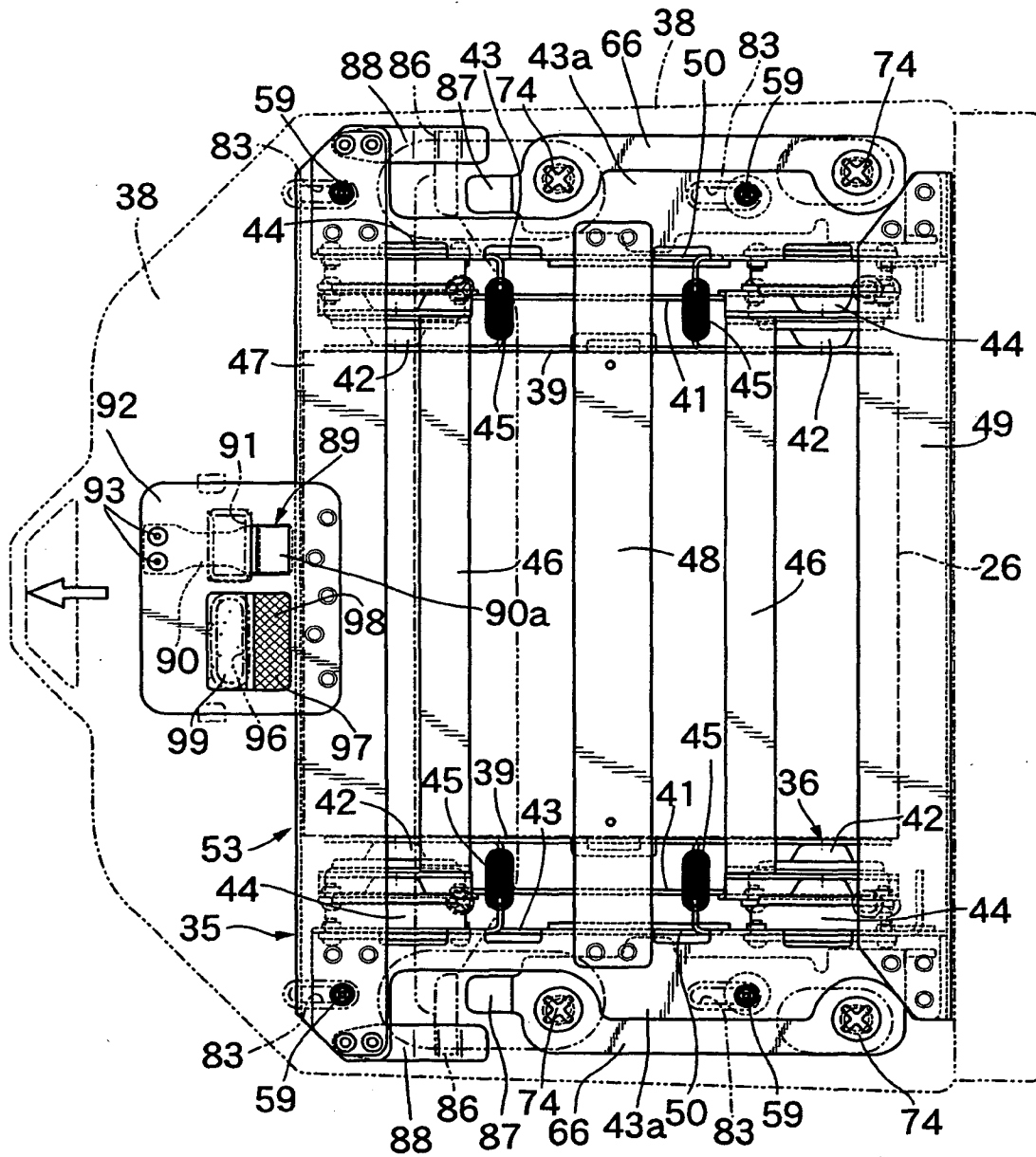
【図16】



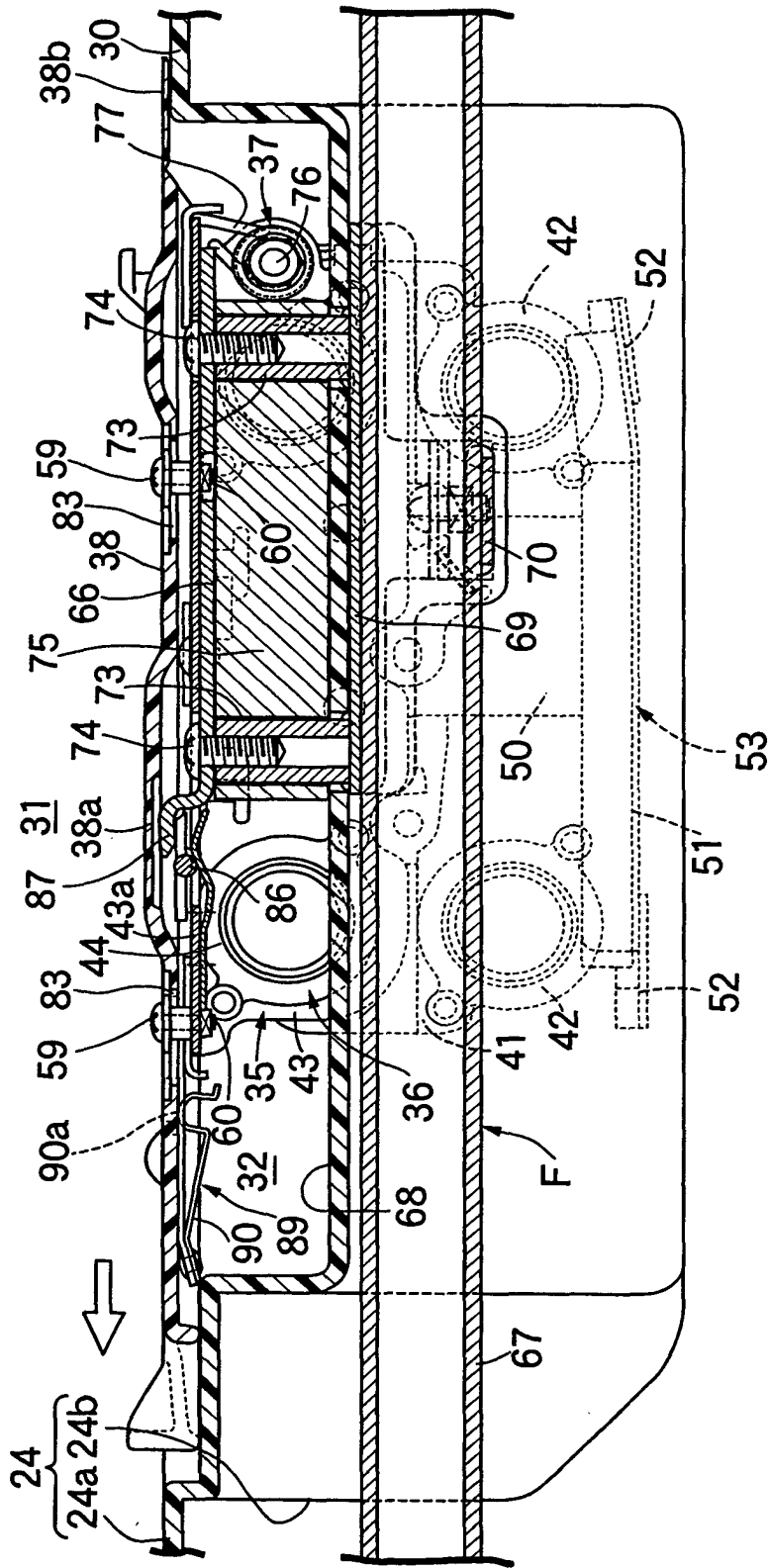
【図17】



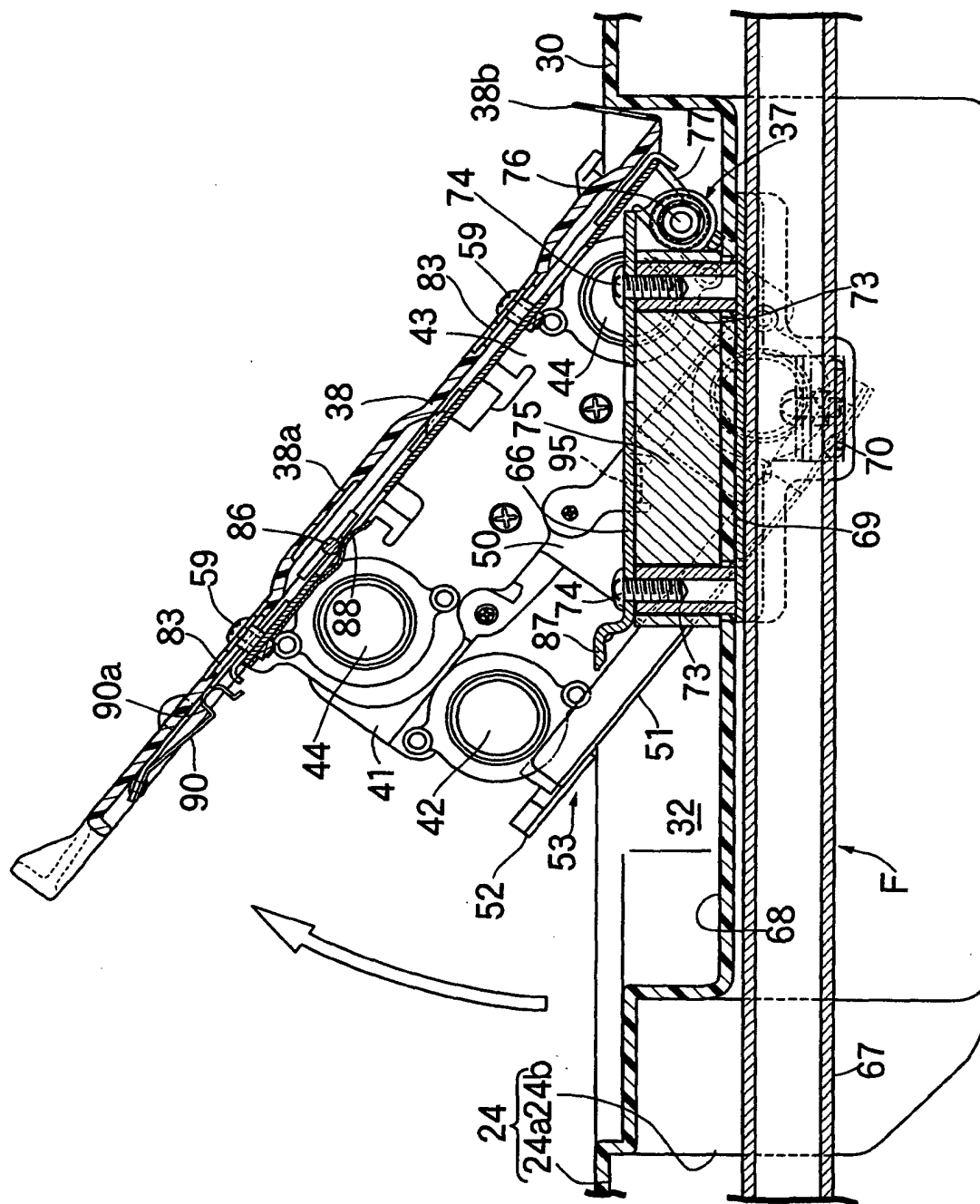
【図18】



【図19】



【図 20】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 後輪を上方から覆うリヤフェンダーの上方に配置されるトランク内に、
C Dチェンジャーが収納される自動二輪車において、C Dチェンジャーに作用する振動を抑制する。

【解決手段】 C Dチェンジャー 2 6 の両側で車体フレーム F に固着された支持脚
7 3 の上部にベース板 6 6 が固着され、車体フレーム F 側からの振動を減衰する
浮動支持手段 3 6 を介してC Dチェンジャー 2 6 が両ベース板 6 6 に支持される

【選択図】 図 6

【書類名】 手続補正書

【整理番号】 YA102-34

【提出日】 平成14年12月26日

【あて先】 特許庁長官殿

【事件の表示】

 【出願番号】 特願2002-229978

【補正をする者】

 【識別番号】 390005430

 【氏名又は名称】 株式会社ホンダアクセス

【代理人】

 【識別番号】 100071870

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 落合 健

【手続補正 1】

 【補正対象書類名】 特許願

 【補正対象項目名】 発明者

 【補正方法】 変更

 【補正の内容】

 【発明者】

 【住所又は居所】 埼玉県新座市野火止8丁目18番4号 株式会社ホンダ
 アクセス内

 【氏名】 落合 英雄

 【発明者】

 【住所又は居所】 埼玉県新座市野火止8丁目18番4号 株式会社ホンダ
 アクセス内

 【氏名】 島崎 隆行

 【その他】 〔発明者表示の誤記の理由書〕 出願人の代理人事務
 所において本願の願書を作成する際に、発明者の住所又
 は居所の欄の記載を正しくは 〔住所又は居所〕 埼

玉県新座市野火止 8 丁目 1 8 番 4 号 株式会社ホンダ
アクセス内とすべきところを、誤って [住所又は居所]

埼玉県新座市野火止 8 目 1 8 番 4 号 株式会社ホン
ダアクセス内と記載してしまいましたので、本日の提出
の手續補正書により願書の発明者の欄を訂正致します。

【プルーフの要否】 要

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [390005430]

1. 変更年月日	1995年12月 4日
[変更理由]	住所変更
住 所	埼玉県新座市野火止8丁目18番4号
氏 名	株式会社ホンダアクセス